

つくばでのシンポジウムに参加しました。

5月20日(土)午後、文部科学省研究交流センター(つくば市竹園2-20-5)で開催された「筑波研究学園都市にイノベティブ・コミュニティを創る ~大学・研究機関と地域の横の連携からデザインする~ シンポジウム」に参加しました。

主催は文部科学省、企画はつくば横の会でした。つくば市長の五十嵐立青氏、「現代の魔法使い」で筑波大学学長補佐の落合陽一氏が登壇することを、茨城新聞紙上で知り、すぐ申し込みました。5月11日(木)に本校でご講演いただいた古新舜氏も東京から駆けつけ、登壇者と熱く語っていらっしやいました。若きつくば市副市長の毛塚幹人氏や、つくば市政策イノベーション部の神部匡毅部長も参加されていました。神部部長さんには、今年度から本校SSH運営指導委員をお引き受けいただいています。

落合陽一氏の話を通じてのは、2016年11月19日の「第5回アクティブ・ラーニング・フォーラム」以来、2度目でした。間違いなく「世界の近未来を担う天才」だと思います。講演後に、直接お話しすることができました。落合氏と話していて、特に印象的だったのは「人と同じことをやっているとダメです。計画的に人と違うことをやることです。」という言葉でした。また、五十嵐市長は「つくばの未来の教育」について熱く語っていらっしやいました。話の中で「今日は私の高校時代の恩師で、並木中等教育学校校長の中島博司先生もお見えになっています。」と紹介してくれました(*^_^*)。さらに、今回のシンポジウムの世話人である江渡浩一郎氏(産業技術総合研究所主任研究員)は、「志のある人々をつなげることのできる」たいへん魅力的な人物でした。

私自身、「つくばの未来をデザインする」ことに少しでも貢献できれば、と思っています。私の大切な職場と自宅のある街ですから(^_^)v!!!。

